



先進的にIT化取り組み

2022年3月期の市場環境について、「景気は若干戻り基調になるとする報道もあるが、新型コロナウイルス感染症の流行が簡単には収まりそうにない状況を鑑みると、ワクチンや治療法が普及するまでは経済の回復は見通しが立たない」と見ており、民間工事は低調になると予測する。それに対して公共工事は「減災・防災、国土強靱化

のための5か年加速化対策」の閣議決定を踏まえて堅調な推移を見込んでいる。

そうした環境の中で、22年3月期の抱負として「コロナ禍は大変な事態ではあるが、オンライン会議の浸透を始めIT化の進展などもあった。工夫して仕事をし業績を伸ばし、社員にはよく寝て、よく食べ、よく笑いながら健康に働いてもらいた

敷地内に新設した研究開発専用
の合材プラントは、そうした研
究開発担当者の要望を受けた取
り組みだ。試験室で開発した合
材が期待どおりの性能を有して
いるか確認するためには実際の
プラントで確認することが重要
だが、稼働中のプラントで実験
をすると生産を一時中止する必
要があるため、出荷スケジュー
ルの調整などが必要となる。そ

施工技術に関する研究では、
IT化に注力する。「IT化は
この先、必ず進まなければいけ
ない道なので、後追いではなく
先進的に取り組みたい」と考え
を述べる。また、近年は大学や
企業との共同研究にも積極的
に取り組んでおり、「これまで
付き合っているかどうかは問わ
ず、開発目的に合わせて最適な
相手を広く探している」と話す。

い」と話す。研究開発について
は「予算も増やして積極的に進
めている。研究開発は担当者が
どれだけ熱意を持って取り組む
かが成果につながるので、『や
りたい』という思いは大切にし
たい」と強調する。

ここで、専用のプラントを用意す
ることで研究開発のスピードを
向上させるとともに多様な研究
の推進を狙う。タブレット端末
から操作できるようにしてお
り、材料の開発だけでなく機械
設備の合理化・自動化のための
開発にも活用する。

21年3月期は、全社用車への
衝突被害軽減ブレーキシステム
の導入なども実施した。安全に
関しては「会社側の安全設備や
ルールの整備と、一人ひとりの
安全に対する意識の2つがそろ
って事故のない現場が実現でき
る」という考えのもと、各種施
策に取り組んでいる。個々人の
意識形成については、常日ごろ
から繰り返し意識してもらうこ
とが重要だと認識を示した。

埼玉県久喜市の機械センター

